

京都大学形成外科研修プログラム説明会

2020年6月20日

プログラム責任者：森本尚樹（教授）

プログラム副責任者：齊藤晋（准教授）

新専門医制度における形成外科研修について

1. 制度の概要

初期臨床研修2年

基本領域専門医
取得研修(3年～)(19領域)

内科
小児科
皮膚科
精神科
外科
整形外科
産婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
泌尿器科
脳神経外科
形成外科
放射線科
麻酔科
病理
臨床検査
救急科
リハビリテーション科
総合診療科

形成外科
は4年

サブスペシャリ
ティー領域研修
(3年～)

専門医機構や
厚労省レベルで
議論中

形成外科専門研修プログラムの4年間

計3年

1年(最低6か月)



連携施設
指導医1名以上

形成外科全般を学ぶ
基本手術手技を習得する



基幹施設(京大病院)

指導医7名以上

- 希少症例や難症例などの特殊な症例を学ぶ
- 科学的思考やプレゼン能力
- 論文作成



地域医療研修施設
専門医不在でもよい

地域医療や実地医科を学ぶ。



3か月～

研修パターンの例

1年目
(卒後3年)

2年目
(卒後4年)

3年目
(卒後5年)

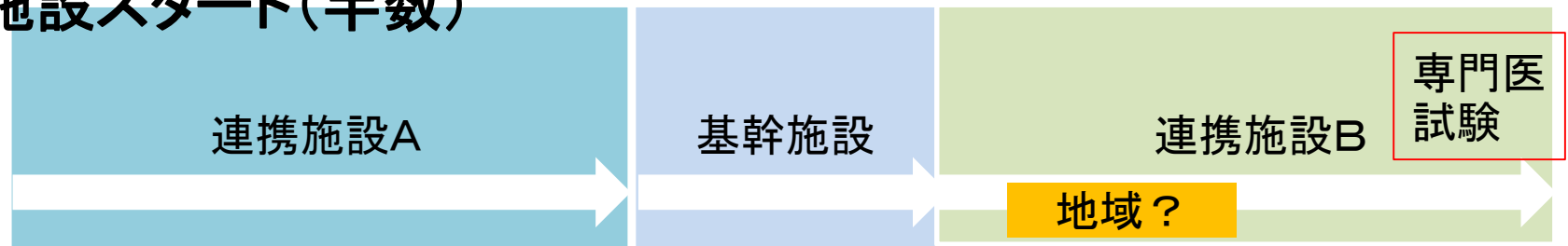
4年目
(卒後6年)

5年目
(卒後7年)

基幹施設スタート(半数)



連携施設スタート(半数)



メリット

- 大学病院スタートの場合、同期の医師とともに学ぶ機会が得られる。また、調べる、まとめる、発表する、といった基本能力を早期に身に着けることができる。
- 連携施設スタートの場合、早い段階から主体的に診療にかかわることができる。また給与面で大学病院より条件がよいため、奨学金の早期返済などを考えている医師には都合よい。

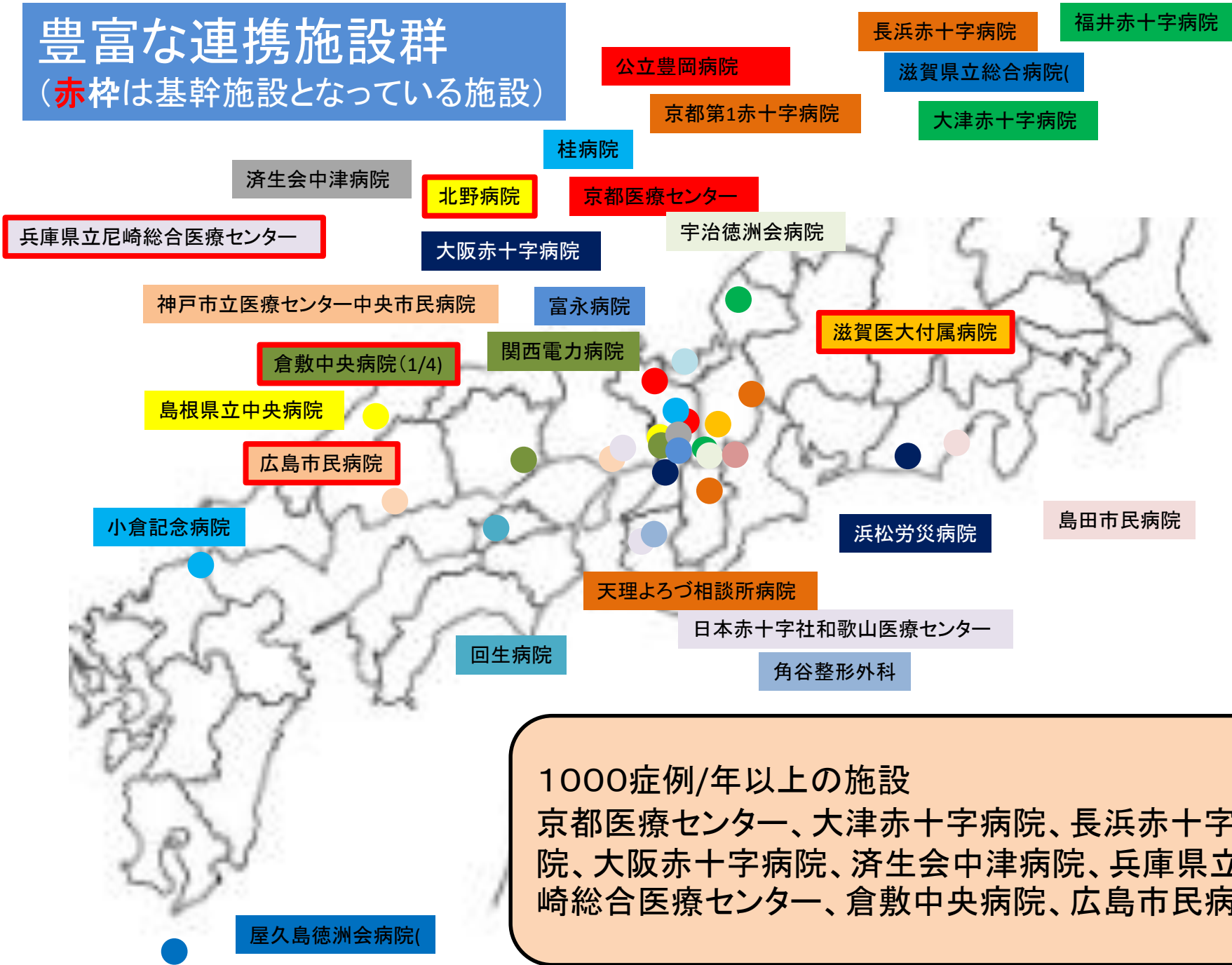
基幹施設(京大病院形成外科)の診療の特徴

1. 口唇裂、口蓋裂、顎裂のチーム医療、および基礎研究
2. 巨大色素性母斑の臨床および基礎研究
3. 四肢先天異常とリハビリテーション、および基礎研究
4. 乳房再建のチーム医療
5. 顔面外科領域と最新3D技術の応用
6. 再生医療を用いた創傷治療, 瘢痕・ケロイドの治療
7. 眼瞼外来やレーザー外来、自費診療部門もあり

- 口唇口蓋裂や母斑、多指症などの小児疾患が豊富であり、専門医取得症例に困らない
- 頭頸部がんや乳房再建症例も多い。動物を用いたマイクロサージャリー習得も可能
- カンファレンス、学会発表でプレゼン能力を身につける。学問的思考も獲得できる。学問的、科学的思考を身につけることができる

豊富な連携施設群

(赤枠は基幹施設となっている施設)



1000症例/年以上の施設
京都医療センター、大津赤十字病院、長浜赤十字病院、大阪赤十字病院、済生会中津病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、倉敷中央病院、広島市民病院

連携施設

研修の流れ

基幹施設

自己評価

他者評価



研修手帳
記入



指導医が
評価を記録



プログラム管理委員
がチェックする

年末の**研修報告会**と
最終年度終了時に提出

専攻医研修実績記録フォーマット
症例
<自己評価>

症例項目	目標数	症例数			
		1年次	2年次	3年次	4年次
I 外傷					
1 熱傷・凍傷・化学熱傷・電撃症	5				
2 顔面軟部組織損傷	20				
3 顔面骨折	10				
鼻骨骨折					
鼻篩骨骨折					
頬骨骨折					
眼窩骨折					
下顎骨骨折					
Le Fort骨折					
前頭洞・前頭蓋底骨折					
4 四肢の外傷	25				
5 外傷後の組織欠損					
II 先天異常					
1 口唇裂・口蓋裂	5				
口唇裂					
口蓋裂					
2 頭蓋・顎・顔面・頭部の先天異常	5				
頭蓋骨早期癒合・頭蓋顎顔面形成不全					
顎変形・顔面裂					
その他					
3 四肢の先天異常	5				
4 体幹(その他)の先天異常	必須ではない				
漏斗胸					
臍ヘルニア					

- 手術に関与した300症例の一覧
- 80症例の手術記録



学会主催の講習
会(春と秋にある)
証明書4枚

専門医取得までの マイルストーン

専門研修 1 年目

- 診察、記録、診断、検査を行うことができる
- 局所麻酔や局所固定法ができる
- 基本的な外傷治療、創傷治療を習得する



専門研修 2 年目

- 1) 外傷
- 2) 先天異常
- 3) 腫瘍
- 4) 瘢痕拘縮・ケロイド
- 5) 難治性潰瘍
- 6) 炎症、変性疾患について基本的な手術手技を習得する。



専門研修 3 年目

- マイクロサージャリー、クラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な技術を要する手術手技を習得
- 学会発表・論文作成を行うための基本的知識を身につける



専門研修 4 年目以降

- 自分自身が主体となって治療を進めていける
- 再建外科医として他科医師と協力の上、治療する能力を身につける
- 言語、音声、運動能力などのリハビリテーションを他の医療従事者と協力の上、指示、実施する能力を習得

5年目の冬に
専門医取得

新専門医制度における形成外科研修について

3. 登録から研修開始まで

募集定員 **8名**

2021年度募集については京都府のシーリング(都市圏への医師集中を防ぐ目的での人数制限)は適応されない

もし募集が8名を超過した場合は京大形成外科と連携するプログラムにて研修できます。

広島市民病院プログラム	2名
倉敷中央プログラム	3名
北野病院プログラム	3名
滋賀医大プログラム	2名

2021年度専攻医登録の流れ

～4月末

プログラム委員がプログラム更新を学会に提出

6月～

専門医機構ホームページでプログラムを閲覧

6月～8月

プログラム委員長との面接



9月(未定)

一次募集(必ず事前にプログラム委員による内諾が必要)

未定(2020年度は定員に達したため行われず)

二次募集(必ず事前にプログラム委員による内諾が必要)

三次募集(必ず事前にプログラム委員による内諾が必要)

3月～

形成外科学会への入会

4月

研修開始、研修開始届を学会へ提出

研修をご検討中の先生へ

当プログラムの見学および面談希望の先生は以下の問い合わせ先に連絡をお願いいたします。

問い合わせ先

(1) 電話: 075-751-3613

(2) E-mail: prs_info[at mark]kuhp.kyoto-u.ac.jp ([at mark]を@に置換してください)

皆様の研修をサポートします。お待ちしております。

